

3B0930

アルミニウム鑄造はプラスチック起原の大気汚染公害を引き起こす

～ヤマハ・タイセイ病で化学物質過敏症発生～

○野尻眞¹⁾、西之園幹夫¹⁾、野尻悟¹⁾、¹⁾ 岐阜県 (医) 白水会 白川病院

1. 白川病院が悪臭物質に暴露して公害発生

2006年5月末より自然環境豊かな白川病院に強い悪臭がたちこめ、住民や病院および特養の1000人以上が暴露、健康被害・傷害が現れた。1～2ヶ月後院内調査254人中81人(32%)に咽頭乾燥感・しわがれ声・頭痛・嘔気・浮遊感・思考力低下・イライラ感・シックハウス・皮膚炎・喘息・呼吸不全・胸痛・不整脈すらきたす者まで出現。住居集合地や病院のわずか30m近傍のヤマハ・オートバイの下請けでアルミ鑄造「(株)タイセイ白川工場」からの大気汚染公害であった。1年後には95%に傷害発生、中毒量に達していたと考えられる。ISO14001取得会社と言えるのか？

2. 悪臭は有害・有毒化学物質による大気汚染

行政機関へ通報。白川町「臭いの問題で我慢を」・可茂保健所「違法でないから取り締まれない」・岐阜県庁「大気汚染でなく悪臭は町の管轄」・環境省「大気汚染で、公害事件、警察署へ届けたか？」。

被害者の病院が独自に東京大学柳沢教授、横浜国立大学浦野教授に悪臭原因の検査依頼し、悪臭防止法のアンモニアを含む22項目とホルムアルデヒド+フェノールの全て、悪臭原因の安息香酸などフェノール誘導体、発ガン性の多環芳香族炭化水素類6種類などの有毒化学物質を検出した。量(指針値)もさることながら、質や『低濃度・複合型・長期汚染』に問題がある。製造方法は特許と言うが、有害化学物質や健康被害を考慮して許可しているか？

3. 大気汚染公害を名古屋地裁へ訴え、半ば！勝訴

2007年1月23日操業停止の仮処分申請をし、同年9月13日仮裁判の決定が下りた。「1.煙道より臭気濃度600を超える臭気物質を排出してはならない。2.アルミ鑄造の1号ライン以外の操業をしてはならない。3.白川病院の申立て(操業のため救急医療中止・化学物質過敏症が起きた)を却下する。」有害化学物質による大気汚染の危険性や化学物質過敏症の認識は理解されなかった。

損害賠償(予見可能性・結果回避義務)、行政の危機管理システム・法整備のため本裁判を予定している。

4. プラスチック起原の大気汚染公害について、臨床環境医学の視点から

- ①杉並病の津谷裕子博士から「これはアルミの問題ではなく、“離型剤および中子(ナカゴ)”で使用されているプラスチック高温蒸発による化学物質が元凶で、杉並病と全く同じであり、症状も同じ。」と指摘を受けた。
- ②(株)タイセイのアルミニウム鑄造では、プラスチック起原の大気汚染公害が起こり、「ヤマハ・タイセイ病」として病期・病態・疫学的にまとめた。化学物質過敏症も引き起こされる。
- ③経皮性・食事性・大気性(室内・室外)にかかわらず、各物質組成の違いによる臨床症状の違いはあっても、外因としての化学物質由来の障害は起こりうる。
- ④大気環境中の化学物質が体内に入り、症状としては多少の個人差はあるが、感覚・呼吸・循環・脳神経系の多臓器特に神経・内分泌・遺伝子にまで及び、その症状は多彩で、「化学物質症候群」と呼ぶべき病態である。メカニズム的には体表面、血管内、細胞内、代謝時に障害を認め、老化や発ガン・生殖毒性による酸化的損傷が起きる。

5. 大気汚染公害における基準値の論点整理

◎基準値そのものに、測定値そのものに、測定検査そのものに、企業バイアスがかかっており、疑問がある。

- ①採取日時の決定の仕方、採取条件(天候等)、検査機関(外注先?)、データの信頼性(工場内のデータとの乖離)、ほとんど瞬間的な濃度でしかない。しかも薄めた再現性に乏しい濃度かもしれない。
- ②採取条件が恣意的にすらすらできる。企業よりの都合の良いデータも作り得る。
- ③ましてや行政が絡んで企業有利のデータ作りさえ有り得る。幹部職員と白川町環境課長とは姻戚関係にあった。
- ④検査センターの精度管理の信頼性は極めて乏しい。1年前岐阜県のこのセンターは、データをねつ造していた。

◎基準値の設定にも、大変疑問を持っている

- ①基準値は、単体の・発ガン性のみの・急性期の・値でつくられている。一般的な健康被害を考慮した値ではない。
- ②「低濃度・複合型・長期汚染」は問題にされていない。

6. おわりに

- ①餃子など食物と違い、空気は選択できず、命・生存に直接関わる。大気汚染を悪臭とした行政の判断ミス、関係機関のたらい回し・責任回避が甚だしい。憲法13条、21条はあるが、病院の環境を守る法律の整備は急務である。
- ②臨床環境医学的に健康被害があれば、予防原則を最優先して、操業停止を懸ける英断が必要である。
- ③豊かで美しい地球大気環境を保全し、現在および未来の地球社会への使命と責任を再認識する必要がある。